

平成二十二年七月三十日提出  
質 問 第 三 号

千葉景子法務大臣による死刑執行に関する質問主意書

提出者 鈴木宗男

## 千葉景子法務大臣による死刑執行に関する質問主意書

本年七月二十八日、千葉景子法務大臣は、二人の死刑囚に対する死刑を執行した。右は、昨年八月の第四十五回衆議院議員総選挙により民主党を中心とする政権が発足して以来、初の執行である。右を踏まえ、質問する。

一 千葉大臣は、死刑制度の廃止を目指す議員連盟に所属する等、従来より同制度に対し批判的で、同制度の廃止を訴えていたと承知する。本年七月二十八日の記者会見においても、「死刑廃止という信念を曲げた心境は」との記者の質問に対し、「（今後の議論で）『廃止』という一つの方向性が出れば、国民的議論の回答だ」、「私が何か考え方を異にした（変えた）のではない」と述べたと報じられている。千葉大臣として、死刑廃止という考えが変わらない中、また、先日投票がなされた第二十二回参議院議員通常選挙において落選し、民間人という立場になった中で、なぜこの時期に死刑執行に踏み切ったのか、その真意を説明されたい。

二 これまで法務大臣が死刑執行の現場に立ち会った例はあるか。

三 今回千葉大臣は、二人の死刑執行の現場に立ち会っている。千葉大臣として、執行の現場になぜ立ち

会ったのか、その真意を説明されたい。

四 かねてより死刑制度の廃止を訴えていた千葉大臣が、時期も理由も不明確な中で執行に踏み切り、更にはその現場に立ち会うという異例の対応をとっている。このような千葉大臣の行動は、国民から見れば極めて不可解で、死刑制度はもとより我が国の司法制度そのものに対する国民の信頼を揺るがせかねないものであると考える。菅直人内閣総理大臣として、千葉大臣の今回の行動に対しどのような見解を有しているか、説明されたい。

右質問する。